



東京油問屋市場 第118回起業祭を開催

と き 平成30年3月23日（金）17：00～18：45
ところ ロイヤルパークホテル（東京・中央区）

東京油問屋市場では第118回起業祭を開催した。

第1部『式典と立会』では、金田康男理事長の式辞朗読に続いて建値委員会 金田雅律委員長の挨拶の後、3月後半の立会いを行ないすべて同事据え置きとした。

第2部の懇親パーティでは、はじめに金田康男理事長が「政治という観点から見ると、世界的に風雲急を告げているのかという感じがする。一方で経済は本日の立会いで全てが同事となったように、言葉で言うと適温経済、あるいは適温相場というものが続いているのではないかと思う。こうした中、このままで我々の業界はいいのか。適温の中にいると、いつのまにか衰退していくという恐れもある。とくに、こうした時は自分自身で変わっていくというような意思を持たないと、どんどんマンネリの世界に入っていく怖さがある。そういう意味でも、東京油問屋市場もいろいろと改革を進めていかなければいけないと、理事長として思っている。東京油問屋市場を改革していくには、ぜひ、ここにご参集の皆様のご協力、ご鞭撻が必要であると思っている。更なるご指導をお願いしたい」と挨拶した。

その後、来賓挨拶として一般社団法人日本植物油協会の今村隆郎会長（日清オイリオグループ(株)会長）より「まずは、東京油問屋市場の第118回の起業祭、そして立会いについてお祝を申し上げたい。私ども製油メーカーも江戸時代から油問屋市場の皆さまと一緒に歴史を刻んできた。私どもの生産と油問屋様の配送・販売が一緒になって連携して、現在があるということだと思う。そういう意味ではまだまだ、これから120年、130年と歴史を刻んでいただきたいと思っている製油業界も昨年は冬の厳しさのように、大変厳しい環境であった。今年こそ、ぜひ冬の厳しさ休眠打破し暖い春を迎え、花を開かせたいと思っている。花も桜のようにすぐ散るのではなく、少しもつような花にしていきたいと思っている。

先ごろ、ある週刊誌の記事で、老けない油の第1位に菜種油を挙げていた。週刊誌などではこれまでネガティブな記事が多かったが、ここにきてポジティブな内容の記事が増えてきている。そういう意味では追い風になってきているのではないかと感じている。この追い風をしっかりととらえ新しい風にして、暖かい春に飛躍していきたいと思っている。私ども製油メーカーと油問屋市場の皆さままで連携し合って、新しい風に乗ってさらに飛躍していきたい」と述べた。

乾杯音頭は全油販連宇田川公喜会長が行ない「昨年、全油販連で企画委員会を立ち上げ、いろいろ油の事を勉強しようとして動いている。過去を振り返って油のこと、問屋の歴史を勉強することで、各営業人の会社の方々に伝えていきたいと思っている。皆さまにもご協力をお願いして、がんばっていききたい」と述べ杯を挙げ、和やかな懇親の場に移った。最後は島田豪副理事長の油締めで起業祭を締めくくった。



金田理事長の挨拶



金田建値委員長による立会い



日油協 今村会長の来賓挨拶



全油販連 宇田川会長の乾杯



島田副理事長の油締め



(写真提供 油脂特報社)